

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 93 号

平成 22 年 1 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

ヒルティ

「眠られぬ夜のために 第二部」

(草間平作・大和邦太郎訳・岩波文庫) より (8)

2 月 20 日

「あなたがたの寛容をみんなの人に示しなさい。」* これは、多くの試練を経て、最後に浄化され気高くされたキリスト教界の大使徒パウロが、その弟子たちに与えた特別に美しい言葉である。われわれは、他人に親切をつくすどんな機会をものがすまいと、生涯に一度は、固く決心しなければならない。たとえそれがただ一つのやさしい言葉や眼差しであっても。わたしたちは親切と金銭とを同一視することにあまりにも慣れすぎている。

* ピリピ人への手紙 4 の 5。なお、ドイツ訳聖書では、「寛容」ではなく、「柔和 (リンディッヒカイト)」となっている。そこでヒルティはさらに「親切」と言いかえたのであろう。(訳者注)

2月18日

わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなた方と共におり、またあなたがたのうちにいるからである。(ヨハネ 14・16,17)

そこでピラトはイエスに言った、「それでは、あなたは王なのだな」。イエスは答えられた、「あなたの言うとおり、わたしは王である。わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世に来たのである。だれでも真理につくものは、わたしの声に耳を傾ける。」(ヨハネ 18・37)

あなたがこのような神の導きを持っているならば、たとえば哲学的知識をうるという目的以外に、なんのためにいろいろな哲学体系を研究するのか。それによってせいぜい、またもや道に迷い、疑惑に陥るかもしれないというだけである。人生で大切なことは、あなたが「真理のみ^{たま}霊」(ヨハネによる福音書 14 の 16,17)を持つということである。そうすれば、それはどんな過誤をもおかさぬようにあなたを守り、時代精神の誘惑や世論の影響に対してあなたを安全にしてくれるであろう。(ヨハネによる福音書 13 の 17,20 の 22,18 の 37,17 の 17)

2月23日

ひとはどんな人生の楽しみに対しても、神に感謝しなければならぬし、また感謝することができねばならない。これが真の楽しみと、ただ「気ままいっばいに生きる」こととを区別する、最上の試金石である。

2月24日

永遠の命とは、唯一のまことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストを知ることでもあります。(ヨハネ 17・3)

わたしのいましめを心にいただいてこれを守るものは、わたしを愛する者である。わたしを愛するものは、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身を表わすであろう。イスカリオテでない方のユダがイエスに言った、「主よ、あなたご自身をわたしたちにあらわそうとして、世にはあらわそうとされないのはなぜですか」。イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところにいて、その人と一緒に住むであろう。(ヨハネ 14・21-23)

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、何でも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。(ヨハネ 15・7)

キリスト教の信仰の全体は、さしあたり、キリスト自身の次の三つの言葉、すなわち、ヨハネによる福音書 17 の 3、14 の 21-23、15 の 7 に要約することができるであろう。これ以外はすべて神学であって、それは魂の進歩には必要がなく、しかも、多くの論争を引き起したし、これからも引き起すであろう。

2月28日

われわれは心の中におきるどんな善い衝動でも、たとえば物を整理しようとするような、ごくささいな善い衝動であっても、いつも即座にそれに従い、実行することによって、先きへ延ばしたり変更したりできないようにしなければならない。同じように、心の中のどんな悪い衝動についても、つねに直ちにこれに抵抗しなければならない。そうしないと、善いことへの衝動はしだいに弱く、また稀れにしか起こらなくなり、一方、悪事への衝動は、抵抗しないために、ますます強くなり、ひんぱんに襲ってくる。善へ進んで行くのも、悪へ陥って行くのも、普通考えられているよりはるかに多く、小さな事や行いが集まって、そうなるのである。もし上に述べた二つの衝動のどちらか一方が、ある人の習慣となってしまうたら、それによって彼の生涯は決定的な勝利を得たか、それとも、敗北に終ってしまったか、のいずれかである。

2月29日(うるう年)

1分か2分のほんのわずかな時間でも、なにか善いことや有益な事に使うことができるものだ。最も大きな決心や行為をするのでさえ、ごく短い時間しか要しないことが少なくない。だから、時間が足りないという口実だけで、何かよいことを延期してはならない。そっくり同じ機会は、もう2度と来ないことが多いものだ。だが、まだなにかははっきりしない点があり、また、急がない場合は、先きへ伸ばすがよろしい。そうすれば、そのことについてそれ以上深く思案をめぐらさなくても、全くひとりで、そのことがはっきりわかり、実行する勇気が湧くことがよくある。それは人間の精神が無意識のうちにも働くからである。だが、行動するには、もっぱら正しい行動をしているという確信をもって、しなければならない。

3月1日

わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。(ヨハネ 14・6)
わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたがたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。(ヨハネ 14・10)

人間の真の偉大さは、その人が善の完き道具、あるいは もっと明確に言えば 彼を通して語りかつ行い給う、神の霊の完き道具である、という点にある。その人がこのことを自覚すればするほど、彼はますます確実に己の道に徹し、いよいよ多くのことを成し遂げるであろう、たとえ世間の人々が全然彼を理解せず、それともただ部分的に、しかも徐々にしか、理解しない場合でも。世間の理解などはたいしたことではない。それどころか、非常によい働きをした人びとすらも、たいていはその死後になって初めて世間に理解されたにすぎない。生存中は、彼らの自然的人間のある性質が、そのうちに宿る霊的人間の働きを妨げることが多かったのである。

イザヤ書 42 の 1 - 19 に語られているような完全な「神の僕は」は、きわめてまれであって、結局のところ、ただキリストにおいてしか存在しなかった。按手礼(カトリックの祝聖別、叙品式)とか教職叙任式によって、そのような性質が授けられるなどということは、もとより真面目に論ずべきことではない。

3月5日

聖書は、すべて神の靈感を受けてかかれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。(テモテ 3・15)

聖書がわれわれの歴史的な神への信仰への基礎となっている書物だということは、いつまでも変わらないであろう。従って、この神の信仰は単なる哲学的信仰に比べてはるかに堅固であり、そして真正の、自己の体験による、直感的信仰(要するに、これこそ究極の信仰である)のために、最もよく道をきりひらくものである。聖書はまさに、このような信仰経験にふさわしいある特定の民族における、その経験の歴史である。…聖書を知らない人、または聖書などなくても済むとか、なにかほかのもので代用できると考えている人は、彼自身の宗教的確信に対して、真に堅固な基礎を保持しえないであろうことは確実である。

聖書を知るには、ときどきくり返して全部にわたって通読するのが有益である。

聖書のための注解書に頼るといふむだな骨折りをしないがよい。本当によい注解書は出ていないし、それは必要でもない。ただし、主として旧約聖書における純然たる歴史的記述に関するかぎり別であるが、しかしそれらは決して主要なものではない。

聖書の中で、なにが神の霊によるものであり、何が人間の解釈や添加物であるかは、あなたがこの聖なる書を誠実に読み始めるならば、まもなく自分で分かるであろう。そのために聖書靈感説*だの、あるいはそれに対する批判だのに、耳をかす必要は全くない。

* 聖書の各文書は神の靈感にもとづいて書かれた、すこしも誤りのないものだという説。テモテへの第2の手紙3の16参照。(訳者注)

3月12日

風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生まれる者もみな、それと同じである。(ヨハネ 3・8)

主はきて立ち、前のように、「サムエルよ、サムエルよ」と呼ばれたので、サムエルは言った。「しもべは聞きます。お話しください。」

(サムエル記上 3・10)

キリストがニコデモとの対話(ヨハネによる福音書 3 の 8)の中で語っているように、神の霊は思いのままの時に、思いのままのところに、風が吹くように行くのである。あなたが霊を呼びよせることはできない。霊があなたを召すのである。あなたはいつでも、そのようなお召しがあれば、一切をさしおいて直ちにそれに従う覚悟をしていなければならない。というのは、それは夜の静かなときばかりでなく、時には丁度多忙を極めている瞬間にも、訪れることがあるからだ。その時こそ、「しもべはききます、お話し下さい」(サムエル記上 3 の 10)と言うべき時であり、その度ごとに、あなたが真と善とにおいて、大きな躍進を遂げるときである。…

3月13日

ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇るう。(コリント 12・9)

…一体、神はいかなる価値と働きとをあなたの人生に与え給うのであろうか。「わたしの恵みはあなたに対して十分である」(コリント 12 の 9)。この恵みこそ、それらにまさるものであり、およそ神のあらゆる賜物のうち最上のものである。この恵みは、私たちが持つような愛ではなく、この人生の勝利賞であり、授けられたものであるが、しかも私達によって達成され、戦いとられたものである。

3月19日

せいぜい中くらいの人生目的よりももっと高いものを追求し、しかもそれをよく達成する人がどんなに少ないかということは、まことに驚くべきことだ。一般の人々が目的とするのは、家庭を築くこと、適度な生活の楽しみ、たかだか例えば職業上か政治上の成功、人なみ以上の社会的地位、などである。けれども、これらはほとんど永続的な利益を残さないものである。

われわれはそのように教育されてきたし、教会からも学校からもはるかにそれ以上に高尚な、力づよい励ましを受けなかった、とも言えるだろう。けれども、人間はそれらのものだけで十分に満足させられるように作られていないのである。…

老年になると、これまで人間の努力の目標のうちの大きかったものがだんだん小さく思われ、以前は見のがしがちだったものが次第に大きく思われてくる。神のものの見方もおそらくそうであろう。もしわれわれが、正しく進歩しながら年をとっていくなれば、次第に神のものの見方に近づくであろう。

3月22日

神に導かれる人たちの一つの特色は、彼らが学ばねばならぬ幾多の事柄を、夢のなかでも体験し、知りうることである。これによって彼らは、現実の生活と同じような感銘を受け、この人生経験を、たいていの場合その警告を、ほとんど現実の体験と同様に、よく記憶にとどめておくことができる。

神の導きは、まことにかすかな、かつ微妙な多くの暗示から成り立っており、人が即座にそれに聴き従うならば、非常におだやかな導きである。だが、すぐに従わなければ、警告はいくぶん厳しいものとなってくる。

3月30日

キリスト教の合理的な部分、すなわち、理知的な普通人のだから、ただ知性だけで理解しうる部分は、善き意志をそなえたすべての人に親しみやすいものである。なぜなら、この宗教は、すくなくともこれまで知られているどの宗教よりもすぐれており、また人間的な事柄により親切なことが、たやすく分かるからである。

これに反して、その神秘的な部分、すなわち、神と個人との内的な直接な関係になると、これは説明できないもので、ただ自己の経験によって把握するよりほかはない。ところが、このような経験は、それをもっぱら研究したり、記述したり、そればかりか、批判しようとする人たちには、決して与えられることがない。彼らのうちだれ一人、おそらくまだそういう経験をしたものはあるまい。それだから彼らは、それを否定することも実に手軽にやれるのである。しかし彼らは、たとえば実際に神とその直接のみわざとを親しく知りながら、しかもそれを否定したり非難したりするような人の場合よりも、まだしも赦されやすい。思うに、神について知りながら拒むことはきわめて重い罪であって、だからそれはすでに多くの不安な魂にとって悲哀の原因となったのである。それに比べて、ただ内的な体験を欠くために神の否定者となった人びとには、たしかにまだ恩恵を受ける機会がのこされている、たとえそれが、この人生のあとに続く生活で初めて許されるかもしれないにしても。

4月3日

人生において何が最も困難であるか、あなたはそれを知りたいと思うか。元来、この問いに対しては、ただ個人的な答えしか与えられないものである。だが、一般的な答えをすれば、こうであろう、すなわち、神から遠ざかることがそれである。しかしこのことも、すべての人にとって同じ程度に感じられるわけではない。わたしにとって最も困難だったのは、我欲を克服することでも、さらに広い意味での自分の間隔・感情への執着にうち勝つことでさえもなく、また信仰のことでもなく、人間に対する諦めや彼らのよい評判を断念することでもなかった。これらのことは私にはむしろ反対にいつもあまりに容易なくらいで、それがかえって私の欠点でもあった、そうではなくて、最も困難なのは忍耐であった。人間の最もよい性質は、ただゆっくりと、しかも多くの忍耐によって初めて、伸びて行くものであり、また悪や利己心はなかなか急には退散しないものである。そこでわれわれが、人間を相手にして、彼らを助けて進歩させようとするとき、ほとんど超人的な忍耐を持っていなければならない。

4月7日

あなたのキリスト教に対する確信がいったんある段階に達すると、教理論の研究など大して役に立つものではない。このとき神がそれを欲し給うならば、超感覚的生命についてのむずかしい諸問題に関して、一瞬のうちにはっきりした解明を与えられるであろう。それは、あなたが多くの書物によって得られる解明にはるかにまさるものである。これらの本の著者の大多数が、彼らみずから確固たる信念を持つべきはずなのに、おそらくそれを所有していなかったのである。